

投稿の手引き

I. 原稿

原稿は表題の頁を第1頁とし、表、図の頁まで頁数を下段中央に記す。1) 表題 (40字以内であること)、著者名、所属 (以上に英訳を付ける)、2) 和文抄録 (500～600字)、和文キーワード (5つ以内)、3) 英文抄録 (200～300words)、英文キーワード (5words以内)、4) 本文原稿、5) 文献、6) 図表のタイトルおよび説明、7) 表、図

II. 投稿原稿の書き方

1. 原稿の様式

- 1) 原稿は、口語体、新かなづかい、平かな、横書きとし、A4判用紙を使用して、1頁672字 (24字×28行) とし、文字の大きさを12ポイント、左右の余白25mm、上下の余白20mmを原則とする。原稿は必ずワードプロセッサで印刷する。英文抄録は同様の用紙を用い、12ポイント以上の大きさの文字でワードプログラムにて作成する。なお、1頁672字の原稿3頁 (枚) で刷り上がり1頁に、また、図表は各1枚が標準サイズ (1頁の片段に収まるもの) 6枚で刷り上がり1頁に相当する。
- 2) 和文抄録、和文キーワード、英文抄録、英文キーワードおよび本文は、表題その他とは別紙に書くこと。

2. 原稿の記述様式原稿の種別は、総説、原著論文、症例報告および技術紹介とする。

- 1) 表題は40字以内とする。表題が35字を超えるものは、柱 (ランニングタイトル) 用として35字以内の表題を第1頁下段に記載する。
- 2) 和文抄録および英文抄録和文抄録および英文抄録は、原則として以下の4項目を太字で項目立てし、要約を全体でそれぞれ500～600字および、200～300wordsで簡潔に記載する。なお、抄録の末尾に字数およびword数をそれぞれ記載する。

(1) 総説

和文抄録：目的、研究の選択、結果、結論

英文抄録：Purpose, Study selection, Results, Conclusions

(2) 原著

和文抄録：目的、方法、結果、結論

英文抄録：Purpose, Methods, Results, Conclusions

(3) 症例報告

和文抄録：症例の概要、考察、結論

英文抄録：Patients, Discussion, Conclusions

(4) 技術紹介

和文抄録：目的、材料と方法、考察、結論

英文抄録：Purpose, Materials and methods, Discussion, Conclusion

3) 英文論文、英文抄録の添削

投稿に際して、英文論文、英文抄録については、英語を母国語とする科学者の添削を前もって受けていることが必須である。構文上の誤りが明らかである論文については、受け入れない場合もあるので留意すること。

4) 原則的な本文の構成および記述法

- (1) 総説：原則として本文刷り上がり8頁以内とする。総説論文は、ある特定の論題について読者の役に立つ情報を紹介し、要約しようとするものである。対象とする領域の背景やこれまでの研究成果を正確に紹介するものとし、参考文献の採択に特に配慮する。その際に、著者の独善的な意見やアドバイスによって大きく影響を受けることがないようにする。また、情報を探し、選択し、まとめるために用いられた手法が記載されていることが望ましい。

- (2) 原著 (基礎研究、臨床研究)：原著論文は、研究の新規性が高く、客観的な結論が得られ、口腔顔面痛学会の発展に寄与するものであること。原則として刷り上がり10頁以内とする。

<原著論文の構成>

- a. 緒言：研究の背景、研究目的および研究の意義が明確に理解できるように記述する。
- b. 研究方法 (材料と方法)：使用した材料や装置、ヒトが対象の場合は、研究の対象、あるいは方法を明確に記載し、同一の方法で追試が行えるようにわかりやすく記述する。また、実験条件の設定、試料の数や抽出法、統計処理等が、研究目的に合致していること。
- c. 結果 (成績)：客観的事実のみを記述し、著者の主観を交えたような表現を避ける。計測結果は

数表による表示を原則とし、平均値と標準偏差などの特性値を併記する。

- d. 考察：方法、結果などについて、従来の文献を参考に十分推敲を重ね、独断的にならないように、また論旨が飛躍しすぎないように注意する。さらに、研究目的に対する考察に的を絞り、総論的な考察は避ける。また、得られた結果のみではなく、それがどのような意義があるのかも記述する。
- e. 結論（総括）：得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。

- (3) 症例報告：臨床において定説となっている診断法、治療法、治療様式の修正等についての提言、あるいは、きわめて珍しい症例、予期せぬ合併症、予期せぬ展開をみた症例についての報告等が該当する。読者が同様の症例を治療する際の参考となるよう、症例について具体的かつ簡潔に記述する。原則として本文刷り上がり6頁以内とする。

<症例報告の論文構成>

- a. 緒言：症例の臨床における位置づけや特徴に触れ、抽出された問題点を述べ、その症例がなぜ報告に値するのかを明確に述べる。
- b. 症例の概要：審査・検査所見、診断と治療方針、治療、経過など、症例の概要について具体的かつ簡潔に記述する。その際、読者の理解を容易にするため、必要に応じて小見出しを用いてもよい。
- c. 考察：関連のある重要な文献を引用し、報告する症例について考証する。症例、治療、経過の特徴に触れ、その症例の位置づけについても言及する。
- d. 結論：読者の臨床に役立つ点を示唆する記述を含む。

- (4) 技術紹介：新しい臨床術式や研究法あるいは材料の使用法などを紹介するもので、原則として刷り上がり6頁以内とする。新製品紹介や単なる技術情報ではなく、著者の提案する改良・改善によって、治療の有効性、安全性、長期安定性あるいは機材の性能等がより向上することが記述されている必要がある。

<技術紹介の論文構成>

- a. 緒言：紹介する技術（術式、研究法、使用法など）の目的を明確に記載する。
- b. 材料とその使用法：材料、装置、使用法、方

法、術式等について、明確に、順序立てて、わかりやすく記述する。

- c. 従来の方法との違い：従来法と異なる新工夫・新規性に関して要点を絞り、簡潔に記載する。特に、著者が開発あるいは工夫した点について、明確に記載する。
- d. 効果あるいは性能：改良・改善によって得られる、術式や治療の有効性、安全性等の向上について、明確に記述する。また、紹介する術式の利点・欠点についても記載する。
- e. 結論：従来法と異なる新工夫・新規性、改良・改善された点、およびその効果等について、得られた結論のみを正確かつ簡潔に記述する。

5) 文献の記載様式

- (1) 本文で引用した順序に一連番号を付して列記し、本文の末尾に記載する。同一箇所でも複数引用した場合は年代順とする。
- (2) 著者名は性、名（外国人はイニシャルのみ）の順とし、著者全員の名前を記載する。
- (3) 引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は、文頭の語の頭文字のみ大文字とする。
- (4) 雑誌文献引用記載は次の方式による。
 - a. 雑誌論文は著者、表題、雑誌略名 巻（号）：頁－頁、発行年（西暦表示とする）。の順に記載する。頁は通巻頁を原則とするが、頁表記が1号ごとに第1頁から始まる（通し頁でない）雑誌に限り、号を記載する。
 - b. 雑誌の略名は当該誌が標榜する略称（付：学術雑誌略号一覧参照）とする。それ以外は医学中央雑誌の略名表と Index Medicus に準拠する。
 - c. 原書あるいは原論文が得られずに引用する場合は、末尾に（から引用）と付ける。
 - d. 受理されたが未発刊の文献は末尾に印刷中（英文の場合は in press）と記載する。

一般例：Aggarwal VR, McBeth J, Lunt M, Zakrzewska JM, Macfarlane GJ. Development and validation of classification criteria for idiopathic orofacial pain for use in population-based studies. *J Orofac Pain* 21 : 203-215, 2007.

通し頁でない雑誌の例：O' Neal SJ, Leinfelder KF, Barrett CE. Clinical evaluation of Dentacolor as a posterior veneering agent. *J Esthet Dent* 1 (1) : 29-33, 1989.

(5) 単行本文献引用記載は次の方法による

- a. 単行本は著者, 著名頁 - 頁, 発行地: 発行者, 発行年, の順に記載する.
- b. 単行本の書名は略記しない
- c. 単行本を2ヶ所以上で引用する際は, 各々の引用頁を記載する.

例: Glickman I. Clinical Periodontology 76-78, Philadelphia: Saunders, 1953.

(6) 分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による. 分担執筆の単行本は分担執筆者. 分担執筆の表題. 編者または監修者, 書名頁 - 頁, 巻などの区別, 発行地: 発行者, 発行年. の順に記載する.

例: Spingelman I, Matsuka Y, Neubert JK, Maidment NT. Extracellular sampling techniques. In: Kruger L, editor, Methods in pain research 133-146, Boca Raton: CRC Press, 2001.

(7) 翻訳書文献引用記載は次の方式とする. 翻訳の単行本, 論文は著者 (翻訳者), 書名 (翻訳書名, 頁 - 頁, 発行地: 発行者, 発行年), 発行年の順に記載する.

例: Okeson JP (杉崎正志). Okeson TMD Management of temporomandibular disorders and occlusion (Okeson TMD, 2-19, 東京: 医師薬出版, 2006), 2003.

6) 表と図の書き方

- (1) 原則として, データを図と表と重複して記載しない. また図表の枚数は必要最小限にとどめること.
- (2) 図表は英文で作成する. 図表のタイトルおよび説明文についても英文で作成し, 和文を併記する.
- (3) 表は word ファイルに挿入する.
- (4) 図, 写真は JPEG 形式で保存する.

7) 個別事項

(1) 見出しは次の順に項目をたて, 順に行の最初の一画をあける.

I, II, III, IV, V

1, 2, 3, 4, 5

1), 2), 3), 4), 5)

(1), (2), (3), (4), (5)

a, b, c, d, e

a), b), c), d), e)

(a), (b), (c), (d), (e)

- (2) 表題には原則として略号を用いない. 万一用いる場合には, 抄録および本文中の初出時に, 正式名称と略号を併記する.
- (3) 抄録の場合には原則として略号を用いない. 万一用いる場合には, 初出時に, 正式名称と略号を併記する.
- (4) 和文および英文キーワードには略号を用いてはならない.
- (5) 計測データとその取り扱い: 計測データは, 原則として, 平値, 標準偏差等の統計値を用いて表現されるべきである. また, データの属性や分布に応じて, 適切な統計解析を行わなければならない.
- (6) 数字は算用数字とする.
- (7) 数字を含む名詞, 形容詞, 副詞 (例: 十二指腸, 三角形など) は漢数字とする.
- (8) 単位は原則として国際単位系の基本単位, 補助単位および組み立て単位を使用する (温度は摂氏を使用する). 参照単位及び単位間換算表: 日本金属学会編「(及川洪) 改訂二版金属データブック」(1984) 丸善 (株) SI 単位換算表: 日本歯科材料工業共同組合編「ガイドブック」1992 年版日本規格協会略語, 略号は国際的に慣用されている用語を使用する.
- (9) 外国語はすべて原綴りとし, 文頭にあってでも大文字にしない. ただし, 固有名詞は最初の文字を大文字で書く.
- (10) 英文の改行に際しては, word で切る.
- (11) 微生物, 動植物などの学名は, 二名法によりイタリックとし, 最初の文字だけ大文字で書く. たびたび使用する場合は, 2 回目以後, 属名を省略してもよい.
例: Streptococcus mutans → S. mutans
- (12) 英文原稿の綴りは米国語綴りを基本とする.
- (13) 歯式の記載方法
 - a. 本文中の表記は, 上下顎, 左右側, 歯種の順とする.
例: 上顎右側第一大臼歯
 - b. 理解の補助のために歯式記号を付記することを勧める.
 - c. Zsigmondy/Palmer 式の歯式表記法 (以下歯式記号と略す) を勧める. 例: 上顎右側第一大臼歯 (6) この場合, 歯式に用いる特殊記号・外字などは, 現時点ではファイルを介しての伝達が困難であることに注意する.

- d. 省略形は避けて、歯式記号とする。例：右上 6 番は、6 と記載する。
- e. プリッジなど表現が難しい場合は、歯式記号表記のみでもよい。例) ③ 4 ⑤ ⑥
- f. 図・表中の表記は、できるだけ、歯式記号を用いる。
- g. 表題には原則として歯式記号を用いない。

8) 所属の記載方法

表題の頁における著者所属機関名は、大学の場合には大学の講座名あるいは診療科名とし、それ以外は機関名を記載する。

例：岡山太郎 桃太郎歯科医院
 岡山二郎 岡山大学病院特殊診療科
 岡山三郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能制御学分野

Ⅲ. 投稿論文の評価項目

投稿論文の査読に際しては、以下にあげる評価項目について評価を行うこととする。

- 1) 研究内容
 - (1) 学会雑誌との適合性
 - (2) 研究内容の新規性
- 2) 研究の意義と目的
 - (1) 研究背景の提示（文献引用の妥当性）
 - (2) 研究の意義と目的の提示
 - (3) 表題の適切性
- 3) 研究方法
 - (1) 研究方法の適切性
 - (2) 必要かつ十分な方法の記述

- (3) 統計処理の適正性

4) 研究結果

- (1) 得られた研究結果の客観性、再現性ならびに信頼性
- (2) 研究結果の表現方法の妥当性

5) 考察

- (1) 研究結果の意味の提示（研究結果の意味：「研究結果」が表している内容、あるいはそれから汲み取ることのできる内容）
- (2) 研究結果の意義の提示（研究結果の意義：「研究結果」が他の研究や臨床などとの関連において持つ価値・重要性）
- (3) 考察項目の適切性と論理性

6) 結論

- (1) 研究目的との整合性と正当性
- (2) 研究結果との競合性

7) 論文

- (1) 投稿規程との適合性
- (2) 内容提示（記述、図、表 [図表の英語表記を含む]）の正確性と適正性（理解の容易さ、長さ、数）
- (3) 文献引用の適正性

Ⅳ. 校正

- 1. 校正は朱書きで日本工業規格（JIS Z 8280-1965）に準拠して行う。
- 2. 校正を終了した印刷原稿と本原稿は、宅配便または速達書留郵便で速やかに返送する。